

沢山の問題・課題を乗り越え

23年産稲刈終了!

生産者通信

NPO法人
米ニケーションセンター
定価 100円(送料込)

ほとんどの地域で23年産米の刈り取りも終わり、生産者の皆さんは作業機や作業場の後始末に精を出されておられる事と思います。今年の収量と品質はいかがだったでしょうか。今年産は地域によって、田場所によってバラつきが大きかったように思います。うか。

それにしても、県内のいづれの産地からも、早生稲・コシヒカリ共にセシウムなどの放射性物質は検出されず、生産者はもちろん消費者の皆さんもほっとされたことと思います。しかし、福島県内では国の基準値は下回ってはいるものの、米からセシウムが検出され、県は安全宣言をおこないました。消費者の動

向が懸念されます。ましてや津波による塩害や放射性物質の堆積によって作付けすらできない農地があることを思うと、手放して喜ぶことはできません。

さて、我が家の有機栽培米の反収は予想通り450kgの不作でした。品質は検査結果の報告を受けていませんので不明ですが、米粒の厚みはあったように思います。減収の原因は肥料不足であり、茎数と着粒数が少なかつたためです。周囲の農家でも最高分げつ期には多すぎた茎が退化して、茎数不足になってしまったので、今年の天候による特殊な現象かも知れません。しかし、我が家では昨年産もや同様の傾向がみられましたので、これまで最高分げつ期の茎数を抑えて、有効茎歩合を上げることを栽培のつとも基本技術にしてきたことを再検討しなければならぬようです。

私自身の刈り取りは酒米の「越淡麗」が最後で9月16日でした。穂先まで青いままでしたが、高温の時は登熟が進むはずだと思っただけです。早すぎると思われるでしょうが、予想通り青未熟は全くなく、適期刈り取りで1等に格付けされました。早刈りの理由は酒米で最も嫌われる胴割れ米を少しでも避けたいとの狙いでもあります。

また、田面が乾いて硬くなり、例年は毎日のようにコンバインのクローラの泥落としに時間を費やしていましたが、今年は全く泥汚れが付かず、そのまま保管ができる状態でした。粘土質で排水の悪い所です。この様なことは初めての経験です。それにしては登熟も後半になればそれほど水がなくても良いのか、それとも稲は田の深い所の水分を吸い上げているのだろうかと思っ

てみるに、出荷が終わりと同時に稲わらの分解促進のために米ぬかを反当80kg位散布し、例年ではなかなかできなかった田の均平のための整地キヤリアによる整地、排水用の溝切、そして有機水田の畦畔や農道の草刈り等々、毎年やりたくてもやらなかった作業を全てやり終えて、一人で満足しています。

刈り取りが終わるとこの地域でも鎮守様の秋祭りをはじめ、様々なイベントが目白押しになります。毎晩のよう祭りに奉納する里神楽の舞や太鼓、そして篠笛の練習が続いています。時に日程調整に困ることもありますが、できるだけ地域の皆さんのお付き合いを大事にしなごら、一年間の収穫と自然の恵みに感謝の気持ちを忘れないようにしたいと思います。

《内山常蔵記》

北陸農政局新潟地域センターより

上越地域の農林水産省統計の作況指数が104と発表されました。加工米の作況調製は10月15日における農林水産省統計の作況表示帯別の作況指数で実施することとなっています。

23年産米は作柄が良好なので増額数量の契約変更の準備をお願いします。増額契約変更は、上越地域の加工米生産農業者へ確実に現物を出荷するように周知し、販売契約により実需者へ引き渡すよう対応をお願いします。

なお、外の作柄表示地帯の加工米生産者はその地域の指数により対応をお願いします。

作柄表示地帯別作況指数
(9月15日現在)

